



高校時代を振り返って

◇ 今回は、島崎陽木さん（岐阜大学・特別支援学校教諭）のレポートです！

私は、現在、岐阜県内の特別支援学校教員として働いています。元々、特別支援学校教員という道を目指していなかったこともあり、毎日、学びながら働いています。ものすごく充実しています。

「活躍する卒業生」のお話をいただいたときに、「別に活躍なんかしていないし、自分でいいのかな。」という思いがありましたが、進路のことで迷っている関高生のみなさんの力に少しでもなれたらいいなと思い、私の受験期の事を中心にレポートを書かせていただきます。

○高校時代

6年前のことで記憶が曖昧なところもありますが、思い出しながら書かせていただきます。

関高校に入ったのは、家から近く、テストの点も合格ラインに達していたから。「〇〇大学に入りたい!」、「大学でこんなことを学びたい!」といった強い気持ちもなく、なんとなく、「教師になろうかなあ。」という気持ちで入学しました。

高校に入ってからは衝撃の連続でした。とにかくみんな頭がいい。そして勉強が難しい。中学校までは、授業を聞いて、宿題をやれば理解できていたのですが、高校では授業で何を言っているのか、全く分からない。今までに味わったことのない感覚でした。正直、なんなんだこの学校は。こんなところで3年間やっていけるのかな。と思いました。

授業がわからない→宿題ができない→宿題のやる気が出ない→授業の進度に遅れていく→もっと授業がわからない、このような悪循環に陥っていました。そのまま1年生が過ぎ、テストをすれば、もちろん赤点ばかり、再テストの常連となっていました。模試も偏差値40代、1番得意であった英語でさえも、偏差値50でした。

① 毎日の授業をどう受けるか

そんな自分が変わる事になったきっかけを、今でも覚えています。高2の夏の二者懇談で、「こんな成績じゃあ、志望大学には絶対に入れんぞ。受験をなめるな。」と言われました。めちゃくちゃむかつきました。(笑) でもそれ以上に、この先生を見返してやろうと思いました。

しかし、今まで勉強をしてこなかった私には、勉強をするといっても、いったい何をどうしたらいいのかわかりませんでした。そこで、先生に尋ねたところ、「とりあえず、毎日の授業を大切にしろ。予習や小テストを疎かにするな。」と言われました。「本当に授業が大事なのかな。」と思いながらも、先生を信じて予習や小テストをきちんとやりました。

予習や小テストをきちんとしてくることで、毎日の授業が全く違ったものになりました。予習をすることで授業がよくわかって、今までは暗号のように思えていたものが、少しずつ楽しくなっていました。そして何よりよかったのが、予習をすることで、毎日帰ってから、机に向かって勉強をするというリズムができたことです。要領も良くなり、段々と予習をする時間が短くなると、余った時間で、その

次の時間の予習、苦手な科目などをするようになりました。勉強の結果はすぐ出ました。

1か月ほどたつと、苦手だった数学では、 γ クラスから、 α クラスへと、英語も β クラスから、 α クラスへと上がりました。数学の先生に、「よくがんばってるな。陽木、変わったな。」と言われた事をいまでも覚えています。その後も、成績は伸びていき、結果的に志望校であった岐阜大学に合格することができました。

関高の先生は、大学受験に挑む多くの高校生に携わってきた、大学受験のスペシャリストです。そんなスペシャリストの授業を疎かにしていませんか？ 毎日の授業もこちらの受け方次第で全く違うものになってきますよ。

② 何事も頑張れる人は、勉強も頑張れる。

先生方がよく言われると思います。高校生の時に、私も先生に言われました。この時も、「本当かよ。勉強時間が長い方が良いのではないか。」と思いましたが、スペシャリストである先生方を信じてみることにしました。

部活、強歩大会、学校祭、文化祭ととにかく楽しみました。部活ではバスケ部を、体育祭では団長を、文化祭ではクラスの劇の役を、とにかく今やれることを全力でやりました。勉強時間は、もちろん短くなりますが、その短い時間でどのように勉強するとよいのであろうと考えるようになりました。必要なもの、不要なものなど、考えるようになり要領よく勉強ができるようになりました。そして、この時間は少しの間だけ勉強のことが忘れられる、息抜きの時間としてもとても良いと思います。

何事も全力でやってみてください。時間の使い方、勉強の仕方を考えるようになると思います。実際にまわりの人たちも、何事も全力に頑張れる人の方が、大学受験もうまくいった人が多いと思います。



① 高校時代 応援団長でした。

○大学時代

大学時代は、教育学部に所属し、教育に関することをたくさん学ばせていただきました。中でも小学校、中学校での1か月ずつの教育実習は、一番勉強になりました。座学もちろん大事ですが、実際に教壇に立って授業をしたり、給食を食べたり、休み時間に遊んだりすることはとてもいい経験になりました。実習を通して、改めて教員になろうと思いました。

大学時代は、自由な時間が多いので、遊んだり、勉強したり、バイトをしたり、思いきってやりたいことをすればいいと思います。働きだすと、自由な時間は限られてくるので、、大学時代にやりたいと思っていることは、思い切ってトライしてみてください。



② 大学時代 シンガポール旅行



③ 大学時代 教育実習

○特別支援学校教員

初めに述べたように、私は特別支援学校の教員をめざしていませんでした。大学4年生の時の教員採用試験では、高校教員の試験を受けました。その時は落ちてしまいましたが、ありがたいことに、講師の話をいただいたのが特別支援学校でした。自分自身、特別支援学校についての知識がほとんどなかったため、イメージが付きにくく、どんなところなのだろうかと、正直不安でした。

働き出した最初は、専門的なことが全く分からず、どのように子どもたちに関わっていけばよいのかわかりませんでした。そんな私に、毎日周りの先生方が丁寧に教えてくださいました。また、子ども

たちと毎日関わるうちに、少しずつどのような支援をしていったら良いのかが分かってきました。自分のしたことで子どもが成長したなあと感じた時、子どもの伝えたいことが分かった時に、特別支援学校っていいなあ。特別支援学校の教員になりたいなあと思うようになりました。

2年間、特別支援学校で講師として働かせていただきました。そして、この4月からは採用試験も合格でき、新たな学校で特別支援学校教員として、毎日楽しく働いています。

勉強することがまだまだたくさんありますが、子供たちの成長のために頑張っています。

元々、希望していなかった校種ですが、今ではとても楽しく働かせていただいています。

○最後に

受験や進路のことで、たくさん悩むと思いますが、関高の先生方は親身になって相談に乗ってくださいます。また、先生方は受験のスペシャリストです。どんどん相談してみてください。受験頑張ってください。